

富山経済同友会

会報

2023. 11月
No. 315



第10回海外教育事情視察 オーストリア・ザルツブルクにて

CONTENTS

- 第10回海外教育事情視察 2
- 10月会員定例会 4
- 【講演録】10月会員定例会：伊藤 羊一氏 4
- 5 経済同友会教育担当委員会交流会 9
- 日本海沿岸地域経済同友会代表幹事サミット 10
- 第31回経済同友会中央日本地区会議 11
- トピックス（富山県庁周辺エリアマネジメント懇話会） 11
- 第2回企業経営委員会（拡大委員会） 12
- 第2回地域創生委員会（県外視察） 13
- 広島経済同友会との交流会 15
- スケッチオーデション（アントレプレナーシップ小委員会） 16
- 第2回委員長連絡会議 18
- 第2回アスリート支援小委員会 18
- 第2回交流委員会 18
- 課外授業講師派遣 19
- 教育講演会等講師派遣 23
- 第85回あけぼの会ゴルフコンペ 25
- 同友会の日（富山 GRN サンダーバース） 26
- 同友会の日（カタレ富山） 26
- リレーエッセイ⑪⑫（橋本 淳 氏） 27
- 活動報告 28
- 会員の入退会 30
- 同友会の思い出（福田事務局員） 32
- 慶事のお知らせ 33
- 今後の予定 33
- わが青春の1枚（高野 治 氏） 34



第10回海外教育事情視察 ～ ドイツ、オーストリア、デンマーク ～ ドイツ・オーストリア・デンマークの教育・社会・文化事情を学ぶ

(令和5年8月29日～9月6日)

当会では、平成20年度から「海外教育事情視察」を実施し、現役教員に海外の教育現場等を視察する機会を提供することで今後の実践に役立ててもらうとともに、当会会員も参加することで経済界と学校教育との交流連携を図っている。

10回目の節目となる今回を最終回とし、ドイツ・オーストリア・デンマークにおける教育、芸術、歴史・文化や経済・社会事情などについて、富山県総合教育センターの宮原京子研究主事を団長に招き、公募教員8名と、名誉団長の中尾哲雄特別顧問を含めた当会会員等11名の総勢20名が8月29日(火)～9月6日(水)の日程で視察した。



ガメルヘレロップ高校（デンマーク）にて

参加者（20名 敬称略）

名誉団長	富山経済同友会 特別顧問	中尾 哲雄	(志道経営研究所 代表)
団 長	富山県総合教育センター 研究主事	宮原 京子	
副 団 長	富山経済同友会 代表幹事	牧田 和樹	(株)牧田組 取締役社長
チー フ	射水市立塚原小学校 教諭	中神 紘士	
団 員	南砺市立井波中学校 教諭	山崎 知絵	
	富山県立氷見高等学校 教諭	糸岡 真理	
	富山県立魚津工業高等学校 教諭	富岡 政裕	
	富山県立魚津高等学校 教諭	中嶋美奈子	
	入善町立入善西中学校 教諭	関口 智也	
	滑川市立北加積小学校 教諭	松岡 倫代	
	富山県立福岡高等学校 教諭	堀井 祐志	
スタッフ	富山経済同友会 常任幹事 教育問題委員会担当役員	稲田 祐治	(株)ミライノ交通観光ラボ 代表取締役
	〃 幹事 教育問題委員会委員長	土屋 誠	(日本海ガス(株) 取締役社長)
	〃 幹事 教育問題委員会前委員長	高瀬 幸忠	(株)スカイインテック 取締役社長
	〃 幹事 教育問題委員会元委員長	伊東潤一郎	(アイティオ(株) 取締役社長)
	〃 幹事 教育問題委員会委員	村尾 于尹	(株)村尾地研 取締役会長
	〃 幹事 教育問題委員会委員	田村 元宏	(株)タムラ設計 代表取締役
	〃 幹事 教育問題委員会委員	宮本 一成	(全日本空輸(株) 富山支店長)
	名誉団長随行者 (富山県立図書館 館長)	中崎 圭子	
事務局	富山経済同友会 事務局 主席経済交流員	寺西 恵理	(富山県研修派遣職員)

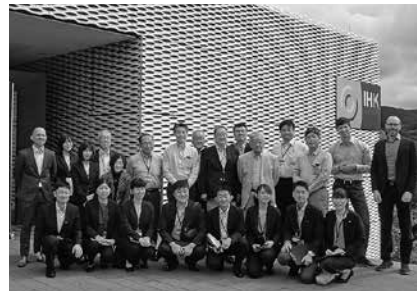
注：視察の詳細は、「第10回海外教育事情視察報告書」(年度内作成予定)に掲載

日次	月日(曜日)	滞 在 地 等	視 察 先 等
1	8月29日(火)	富山空港→羽田空港→フランクフルト	・結団式 【機内 泊】
2	8月30日(水)	フランクフルト→ザルツブルク	・ザルツブルク市内視察 【ザルツブルク 泊】
3	8月31日(木)	ザルツブルク→ミュンヘン	・ミュンヘン市教育・スポーツ局 ・在ミュンヘン日本国総領事館 【ミュンヘン 泊】
4	9月1日(金)	ミュンヘン→アーレン →オーバーコッヘン→ミュンヘン	・商工会議所アーレントレーニングセンター ・企業視察 (Zeiss 社) 【ミュンヘン 泊】
5	9月2日(土)	ミュンヘン→コペンハーゲン	・コペンハーゲン市内視察 【コペンハーゲン 泊】
6	9月3日(日)	コペンハーゲン	・コペンハーゲン市内視察 【コペンハーゲン 泊】
7	9月4日(月)	コペンハーゲン	・ホイデバンゲンス学校 ・ガメルヘレロップ高校 ・在デンマーク日本国大使館 【コペンハーゲン 泊】
8	9月5日(火)	コペンハーゲン→フランクフルト	・解団式
9	9月6日(水)	→羽田空港→富山空港	

〔スナップ写真〕



ミュンヘン市教育・スポーツ局



商工会議所アーレントレーニングセンター



Zeiss 社



デンマーク王立図書館



ホイデバンゲンス学校



在デンマーク日本国大使館



みんなで夢を話し、未来を創ろう

伊藤 羊一 氏 講演 — 10月会員定例会 —

10月会員定例会を10月13日(金)、ホテルニューオータニ高岡で開催。武蔵野大学アントレプレナーシップ学部 学部長 伊藤 羊一 氏が「この国が再び立ち上がるために」と題して講演を行った。今回はアントレプレナーシップ小委員会（村上 宏康委員長）が主管し、会員76名（オンライン視聴含む）が参加した。

最初に伊藤氏は、人間の基本的な部分は変わっていないが、テクノロジーにより世界が変化したと述べ、自動車やデジタルデバイスの登場により短期間で生活スタイルが変化したことや、オンライン授業のカンファレンスに5日間でゼロから千人集めることが出来た自身の事例を紹介し、「皆が普通に使っているものもアイデア次第で様々なことが自由に出来るので、食わず嫌いせずにチャレンジして欲しい」と伝えた。

また、AIの次に台頭するものとしてIoTが来るだろうと述べ、全てのものがインターネットにつながるIoEがこれからの重要なトレンドになると説いた。加えてAIは人間を超えるとは思っていないが、データ量は莫大であるの

で正解を出すのは得意であることから、「こうなったらいいと思うことがテクノロジーを使って出来るようになるので、何をやりたいのかが重要になってくる」と訴えた。

さらに、日本とアメリカのバブル崩壊以後の経済成長の違いはアントレプレナーシップであり、現在のテックジャイアントは個人の欲望で生まれたが、日本の文化では否定してきたので生まれなかったと語り、今はリーダーが正解を知る時代ではなく、一人一人が「どうしたいか」を問われているので、「Lead the Self」、つまり自分自身をリードすることが必要になると述べた。

最後に自身の「譲れない想い」を詰め込んだ武蔵野EMCの取組みを説明し、大事なことは「みんなで話すこと」、「みんなで夢を話すこと」だと伝え、「みんなで話をしながら、未来を創っていきましょう」と講演を締めくくった。



村上委員長

10月会員定例会(2023.10.13)講演録

「この国が再び立ち上がるために」

武蔵野大学アントレプレナーシップ学部 学部長 伊藤 羊一 氏



(プロフィール)

アントレプレナーシップを抱き、世界をより良いものにするために活動する次世代リーダーを育成するスペシャリスト。2021年に武蔵野大学アントレプレナーシップ学部（武蔵野 EMC）を開設し学部長に就任。2023年6月にスタートアップスタジオ「Musashino Valley」をオープン。「次のステップ」に踏み出そうとするすべての人を支援する。また、LINE ヤフーアカデミア学長として次世代リーダー開発を行う。東京大学経済学部卒。1990年日本興業銀行入行。2003年プラスに転じ、ジョイントテックスカンパニーにて執行役員マーケティング本部長、ヴァイスプレジデントを歴任、経営と新規事業開発に携わったのち、2015年よりヤフー。代表作「1分で話せ」は60万部超のベストセラーに。その他「1行書くだけ日記」「FREE, FLAT, FUN」「『僕たちのチーム』のつくりかた」など。

◆ 世界はどんどん変わる

人間のDNAは二、三千年たってもあまり変化がないそうですが、世界はテクノロジーの力

でどんどん変わっています。1900年のマンハッタンの写真を見ますと、路上を走るのは全て馬車でした。しかし、T型フォードが大量生産さ

KOUENROKU

れたことで、13年後には全て自動車に変わりました。時代を近づけ、今度は2005年のバチカン、ローマ法王の選出を待つ人々の写真です。ガラケーで撮ろうとする人も僅かにいますが、画質は悪く、自分の目に焼き付けようとする方々が大半でした。これが8年後、2013年の選出の際には一変します。人々が掲げるのは高画質のスマホで、タブレットの人もあります。07年にiPhone、10年にiPadが登場し、ハードが変わったからです。加えてソフトも、06年にツイッター、10年にInstagramと、この間にSNSも普及し、パシャパシャ写しては「バチカンう」というように、みんなで情報をシェアする生活スタイルに変わってきたのです。

テクノロジーの力はバカにできないと自身が経験したのは、初めて新型コロナの波が来たときでした。2020年1月のクルーズ船入港を機に、学校はいつまで休みが続くのか不透明な中、オンライン授業のやり方を教えてくれと、4月1日に立教大学の先生から連絡がありました。みなさん、今でこそZoomの操作は慣れましたが、当時は多くの人が「Zoomって何やねん」というオンラインで授業をするなんて想像もつかないという頃でしたので、一通り操作の仕方をお教えすると、これで簡単に授業ができると大変喜ばれたのですが、聞けば、4月第2週から授業が始まる。全国の先生が困っているからノウハウを共有してほしいとも頼まれたのです。そこで、6日までにやらないと間に合わないので、急いで準備を開始しました。

まず、一人では無理なので、あした企画会議をするからとSNSで参加を呼びかけました。すると、30人が集まって、3日にはチケットサイトのPeatix（ピーティックス）で、ノウハウ大公開無料カンファレンスとして打ち出せました。すると、用意していた300人分では間に合わず、1,000人分までチケットを増やしたのですが、瞬間蒸発しました。そして、当日6日には、全国の大学をはじめ中高の先生方がウェブ上に参集しました。

要するに、4月1日の発案から5日間で、影

も形も発想もなかったZoomのやり方を学ぶ企画、1,000人が集まるイベントが実現したのです。それはテクノロジーの力です。皆さん方が普通に使っているもので、アイデア次第でいろんなことが自由にできることが分かったのです。

迷われている会社さんは、食わず嫌いにならないで、こうしたテクノロジーの力を使いながら、事業を抜本的に変えるチャレンジをされてはいかがでしょうか。

今はやりのテクノロジーといえば、いわゆる生成AI、「チャットGPT」やグーグル「Bard」などです。また、音声の聞き取りもかなりの水準です。日本語って「橋」や「箸」のように同じ発音で違う言葉がありますが、それも判断してくれます。こういったものを使いますか、使わないですか？という話です。生成AIと言われているものはもうめっちゃめっちゃ使えますという事です。

僕自身も大学で「事業と哲学」という科目を始めることを決め、新しい学部なので授業を一からつくる必要があったのですが、実際、授業をやる段になると、結構面倒くさい。そこで、チャットGPTを活用することにしました。

「僕は武蔵野大学のアントレプレナーシップ学部長で、「事業と哲学」という授業を行う。2年生の必修で14回あるのだけど、授業案を出して」と指示しますと、ばーっと出てくるわけです。それを基に細かな点をチャットGPTと対話しながらつくるのですが、かなりのレベルです。全部正解を教えてはくれませんが、「壁打ち相手」としては最高です。そして、夜中も関係なくできますので、ガチで使えるようになってきたというのが実感です。

◆ Internet of Everything

では、その次に出てくるものは何でしょうか。新たに登場したテクノロジーがどのような軌跡をたどって普及するか、調査会社ガートナーが示したカーブをハイブ・サイクルといいます。期待がピークに達してから低下を続け、幻滅されるまで落ちた後に実装されていくことを示し

ます。

今後 AI は実装されていきますが、次に、このサイクルのどん底にあるテクノロジーが来ます。それが「モノのインターネット」、いわゆる IoT (Internet of Things) です。

分かりやすく言いますと、インターネットがスクリーンの外に出てつながるということです。例えば今日も、僕が東京の新橋からここに来る間、新幹線の時間や乗換え、地図、天気、人とのやり取りが基本的にスマホの画面上で完結しています。B to Bの世界では徐々に一般化していますが、さらに全てのものとつながるということで、「Internet of Everything」がこれから重要なトレンドになります。

絵空事ではありません。例えば家電です。冷蔵庫があるとします。「オーケー」と声をかけ、昼食にカレーを作りたいと伝え、足りない材料があるので、近くのコンビニから配達させますかと聞いてきます。また、作り方が分からないと言うと、「クラシル」で調理の映像を流してくれます。

スマートスピーカーを置き、冷蔵庫の中のカメラとセンサーで材料を把握、アレクサを使い、チャット GPT に質問し、配達はウーバーイーツです。つまり、今でも普通にあるもので、冷蔵庫がしゃべってカレー作りをサポートしてくれるというように、既にドラえもんのような世界ができており、また、そういう社会になっていくわけです。

鍵も実物を多く持ち歩かなくても、スマートロックであればスマホで一発です。現金の支払

いも、どんどん QR コード決済になっています。農業も、センサーによる生育データの収集が役立ちます。そして、富山のスタートアップ企業がスマート水門を開発し、開閉がスマホで行えるようにもなりました。

僕で言えば、ウェビナーをすることも多いのですが、椅子と空調をつなげることで、皆さんの顔が見えない中でも、椅子の挙動のデータから集中力の乱れが分かれば、目覚まし代わりに、部屋にバーツと強い冷風を送り込めます。その前に話を面白くしろと言われそうですが、こんなこともできるわけです。

一言で言えば「ドラえもんの世界」ですが、このように、インターネットがつながっていれば、アイデア次第でいろんなことができるわけです。

インターネットの中にあるデータ量を見ますと、皆さんが PC を使い始めた2000年頃はほぼゼロに近かったのですが、2010年に0.98ZB。スマホを持ち歩くようになって、2020年には44ZB と、10年で40倍に激増しました。つながっていくわけですから、2030年に向けてデータは一層増えていくでしょう。ですから、AI はますます賢くなります。

AIが人間を超えるとは思っていません。ただ、僕らは一人一人の人間ですが、向こうは80億人分のデータがたまっていますから、正解を出すみたいところは賢いのです。

要するに、最低限のテクノロジーはご認識いただきたいのですが、それありきではなく、こうなればいいのにとすることがテクノロジーを使ってできる可能性が高まりますので、自分たちで問いを立て、話して決めて、仕事を創っていける世界になる。また、皆様方が関わるあらゆる仕事がインターネットと無縁ではいられなくなるということです。

◆ 「集団」から「個人」へ

国別に GDP の40年間 (1980年～2020年) の推移を見ますと、2020年の日本の数字は、世界第3位と言いながら、アメリカの4分の1、中



KOUENROKU

国の3分の1しかありません。

1990年から始まったバブルの崩壊が日本を変えたようによく捉えられます。「失われた30年」のきっかけとしてはそうですが、日本経済は95年まで成長しており、アメリカの約7割のGDPを稼いでいました。ですから、この時点に何か本質的な問題があったわけです。

95年というと、ウィンドウズ95が出た年です。このインターネット元年をもって、なぜ日本は別の国になったのでしょうか。

先ほどインターネットを使って自由にできると言いましたが、それをアメリカは実行したので、テックジャイアントのような会社が生まれたのです。生まれなかった日本との差は個人のアントレプレナーシップです。

アマゾンではジェフ・ベゾス、フェイスブックはマーク・ザッカーバーグ、グーグルはラリー・ペイジとセルゲイ・ブリン、ツイッターはジャック・ドーシー、それぞれ個人の欲望や妄想によってつくられた会社です。

日本では、まず個人でやる人はいませんでした。加えて、会社でも、「140字で世界の人と情報交換し合えたら」のようなことを言った人もいたかもしれないが、「誰が使うの。どうやって儲けるの」で却下。多分、日本の文化で「どうせ無理」と否定してきたので、こうした会社が生まれなかったのです。

日本が成長していた頃は、ものづくりの時代でした。ですから、みんなでチームを組んでというのは、日本は強いのです。しかし、自由に個人の意向で妄想を形にするサービスづくりのようなところでは、いきなり弱くなります。

前者を「タテの社会」、後者を「ヨコの社会」と呼んでいます。WhatよりWhy、大量生産より意味が大事になります。昔は、三種の神器や車など、個人で欲しい物は大体決まっており、正解があり、つくった後は改善していればよかったのです。しかし、今は、個人の欲望に従う創造や抜本的な変革が必要な世の中になりました。

マネジメントについても、昔は教えて育てる



ことが重要でした。経験者が強く、全て上意下達、メンバーの個性ではなく、正解を早く正確に求めることが必要とされました。しかし、時代は明らかに変わりました。みんなで話して、みんなで決めます。フラットに一人一人の意見が大事なので、ダイバーシティが重要視されます。自分の思いこそが大事という社会になりました。

社長が正解を知る時代ではありません。ですから、会社の皆さん一人一人に意見を言ってもらい、みんなで話しながらその会社の未来をつくる必要があります。そのために、自分自身はなぜこの仕事を行い、会社をどうしたいのかを考えることが重要です。社員一人一人が「あなたはどうしたいのか」を問われます。そこで、「Lead the Self」、自分自身をリードすることが必要になります。

◆ 譲れない思い

それには、今大事にしていることは何かを聞くのです。それが一人一人違うのは、おのおのが過去に違う経験をしているからです。そうした過去の自身を振り返るところから、その人の大事にしていることを見つけ出してあげるのがリーダーの仕事です。

僕のライフラインチャート、年齢を横軸に自分の人生の浮き沈みについてカーブを描きますと、15歳ぐらいから落ち込み始め、26歳でどん底、会社にも行けなくなり、ゲームで寝落ちしないと眠れない状態でした。しかし、その後アップダウンを繰り返し、今は元気に楽しく活動

しています。こうした経験が今の僕に大変影響しています。

社長は決めることが仕事ですが、なぜ意思決定ができるのでしょうか。それは多数決などではありません。要するに、最後は自分の想いに従っているからです。

これが「譲れない想い」です。社員の皆さんは、それが無いのではなく、意識する機会が少ないのです。従って、社員が主体性を持つためには、譲れない想いを問いながら、何をしたいのかを引き出す。最初は多分「別に」などと言いますが、あまり意識が成熟していないだけで、皆さん、お持ちのはずです。それを信じて、過去を振り返ってもらいながら、今大事にしていることは何かを皆さんに聞いてみるといいと思います。

この30年間の経験で生まれた僕の譲れない想いは、「人は変われる」、そして「FREE, FLAT, FUN」です。僕が変わったくらいですから、人は変われます。また、「FREE, FLAT, FUN」は、入社当時の日本興業銀行がそういうところではなかったの、メンタルが不調になったのです。それで、そうした場所に逃げようとしたし、つくろうとしました。この譲れない想いに従って開設したのが武蔵野 EMC です。

◆ みんなで夢を話そう

アントレプレナーシップは、起業家でなくても、働く人全てが持つべきマインドです。この学部では、新しい価値を創造していくマインドの醸成を目指しています。

特徴は、まず、授業の中で起業するような実践中心のカリキュラムです。2つ目、社会の今を紹介したいので、教員のほとんどが現役実務家ですし、毎週1人、アントレプレナーがゲスト講義を行います。3つ目、僕も一緒に住んでいます、1年生は全員が寮で、共同生活によるコミュニケーションを通して学びます。

日本はアントレプレナーシップが足りない、テクノロジーで新しいものを創出するなどいろいろ話をしましたが、要するに、そうしたことを

をこの学部で形にしたいのです。

当たり前ですが、人が育つには、本を読んだり、面白い仕事したりするなど、まず刺激的なインプット、次に、学ぶばかりではなく、アハッと気づいて、アウトプットすることが必要です。

そして、もう一つは、人が目覚めていくプロセスです。ユーグレナの出雲さんは、バン格拉デシュに行ってムハマド・ユヌスに会ったので目覚めたとおっしゃいましたが、それは「 $n = 1$ 」の一つのサンプルで、全員が会えるわけではありません。でも、これには一般解があるはずだと気づいたのが「みんなで話す」ということです。

例えば、飲み会で、いいアイデアだ、絶対実現しようと盛り上がっても、翌日になれば忘れてしまいます。それは、一人になるからです。翌朝、全員が集まれば、話は続きます。

つまり、寮なんですよ。寮でずっと話していると、そのままスパイラルに盛り上がっていきます。

職場も同じで、話す機会をつくることによって、人から刺激を受けたり、話しているうちにコミットしていきます。ですから、単純過ぎると思われるかもしれませんが、話す場をどれだけつくれるのが鍵になります。大事なことは「みんなで話すこと」「みんなで夢を話すこと」です。

また、学生に聞くと、この学部は最高だと言います。それは「人の夢を笑わない」からです。先生も学生も、人の夢を笑いません。やりたいことを話しても、「どうせ無理」と言いません。人の夢を笑うような環境をつくっていませんか。それでは夢など語れません。

「パソコンの父」とも呼ばれるアラン・ケイは「The best way to predict the future is to invent it.」と言います。意識すると、「未来は予測するものではなくて創るもの」ということです。未来は天才の頭の中に自然に出てくるようなものではありません。みんなで話をしながら、未来を創っていきましょう。



第10回 5 同友会教育担当委員会 交流会

中部同友会主管 愛知で開催

第10回 5 経済同友会教育担当委員会交流会が 9 月19日(火)、中部同友会の主管で愛知県で開催された。この交流会は、富山、群馬、新潟、栃木県、中部の 5 同友会の教育問題を担当する委員会が意見交換や情報交換を行い、連携・交流を深めることを目的に平成25年度から開催されているもの。当会からは、牧田代表幹事、教育問題委員会の土屋委員長はじめ会員11名、教育現場から県立高校の教員 4 名が参加した。

まず、「瀬戸市にじの丘学園」を視察。同校は、少子化による児童・生徒数の減少を受け、5 小学校・2 中学校を統合し、令和 2 年度に開校した小中一貫校。統合にあたっては、当初は反対意見が多かったが、有識者・自治会・



開放的な教室と広い廊下

PTA・教育委員会によるワークショップの開催や地区協議会による議論などを経て住民の理解・協力を得ていった。今では同校の教育が評価され、開校当初835名だった児童・生徒数が、学区外からの転入者が増えた結果1,100名となり、増築を検討しなければならないほど。魅力的な学校づくりが地域の活性化をもたらすことを実証した。

小中一貫校は、年の離れた子どもたちの交流が進む、小中の教員が連携できる、切れ目ない教育により中 1 ギャップがない、などのメリットがある。一方、小学 6 年生のリーダーシップを養う機会が減るというデメリットがあるが、6 年生にイベントを企画させるなどして対応しているとのことであった。

その後、ヒルトン名古屋において、各地同友会からの取組紹介と「教育界と経済界の協働をめざして～教育界からの期待～」をテーマとする座談会、懇親会が行われた。

各地同友会からの取組紹介は、当会からは、教育問題委員会の活動について土屋委員長が発表、課外授業講師派遣の講師リストの整備や海外教育事情視察などについて説明した。



土屋委員長

座談会では、愛知東邦大学の鶴飼裕之学長、愛知教育大学の野田敦敬学長、名古屋国際工科専門職大学の松井信行学長が「学生の学外実習を積極的に受け入れてほしい」「教員向けのキャリア教育を実施してほしい」「高度な教育を受けた人材を企業内で正當に評価してほしい」と、経済界に期待することを語った。



座談会

続く懇親会では、中部同友会の天野源之代表幹事の乾杯・挨拶の後、参加者は大いに交流を深めた。懇親会の最後に当会牧田代表幹事が「この交流会の開催は、今回で 5 同友会を 2 巡した。過去10回で築いてきた 5 同友会のネットワークは永遠に不滅だ」と挨拶し、閉会となった。



牧田代表幹事

日本海沿岸地域の交流・連携の重要性を再認識

— 第14回日本海沿岸地域経済同友会代表幹事サミット —

今回で14回目となる日本海沿岸地域経済同友会代表幹事サミットが9月21日(木)～22日(金)に金沢市のホテル日航金沢で開催された。この代表幹事サミットは、日本海沿岸地域の相互交流、連携推進を目指して、平成20年9月に第1回を富山で開催して以降、14道府県の同友会（北海道、青森、秋田、山形、新潟、富山、金沢、福井、京都、神戸、鳥取、島根、福岡、沖縄）の持ち回りで開催され、14回目の今回は、北海道から沖縄まで約130名が参加し、当会からは中尾哲雄特別顧問、麦野英順・牧田和樹代表幹事ら23名が参加した。

冒頭、金沢同友会の浜崎英明代表幹事の開会の挨拶の後、同同友会常任幹事・(株)浦建築研究所代表取締役の浦淳氏が「金沢の建築文化」と題して講演を行った。浦氏は、スライドを多用し、兼六園の緑地における建築物の変遷を説明し、「21世紀美術館などの斬新な建物に当初は反対運動がおこったが、時代の変遷とともに文化も変化しており、守るべきものは守りながらも創造的なアプローチが必要である」と力説した。また、ドイツ、ベルリンのフンボルトフォーラムの茶室を作るプロジェクトに参画した実績を、建築と工芸を融合した茶室のメイキングビデオで紹介し、「建築は街を映し出す鏡であり、金沢の文化をつくる」と建築文化の重要性を説いた。

続いて、地域文化総合研究所代表の長谷川孝徳氏から「金沢の茶屋街文化」と題して講演が行われた。

長谷川氏は、茶屋街の歴史、芸妓がつくったお茶屋街文化を紹介し、売春防止法以降の茶屋街が大きく様変わりしたこと、茶屋街の芸事を後世に残そうと芸妓の組合が全国で4番目に設立されたこと、茶屋街の光と影の両面の歴史とともに庶民に培われた芸事を後世に伝えなければならないこと等を説いた。

次に、金沢同友会から活動報告として、コロ

ナで窮地に陥り、後継者の不足などの課題を抱える茶屋街を支援するため、金沢商工会議所、金沢芸術文化協会と共同で、昨年、石川伝統芸能支援経済人会議を立ち上げ、一口3万円で会員を募るとともに、県及び市からの補助金を加え、芸妓や邦楽等に毎年約2,000万円の支援金を支給し、稽古場の改修や茶屋文化を守る取り組みを行っていることが紹介された。

また、北陸新幹線敦賀開業にあわせて次期全国経済同友会セミナーを開催する福井経済同友会から、これまでの準備状況の説明と多数の会員参加を期待する旨が述べられた。

最後に、日本海沿岸地域経済同友会代表幹事サミットの発起人である当会の中尾哲雄特別顧問から、「日本海沿岸地域代表幹事サミットが始まり14道府県を一巡するのに17年かかった。これまで各地域で知見を高め、多くのひととの交流を深めることができた。これで区切りとなるだろうが、日本海沿岸の共通のテーマや課題について提言又は解決を求めるなど、日本海側のいくつかの同友会が参加して、また、新たな形で進んでいかなければいいと思う」と、これまでの感謝と新たな船出に期待を込め、挨拶があった。

交流レセプションでは、オープニングのアトラクションとして金沢三茶屋街芸妓衆によるご祝儀「金沢風雅」が披露され、

金沢同友会の福光松太郎代表幹事の開会の挨拶と乾杯により懇親会が始まった。

和やかに歓談が繰り広げられ、最後に金沢同友会の砂塚隆広代表幹事の閉会の挨拶で幕を閉じた。懇親会の後には、二次会として「金沢にし茶屋街で伝統芸を楽しむ会」が催された。



中尾特別顧問



講演会



交流レセプション

カーボンニュートラルの実現に向けて

～ 名古屋市で第31回経済同友会中央日本地区会議 ～

10月23日(月)に名古屋東急ホテルにおいて第31回経済同友会中央日本地区会議が開催された。今回は「カーボンニュートラルの実現に向けて～いま企業が取るべき対応とは～」を総合テーマに、中部地区10経済同友会から74名が参加し、当会からは麦野英順・牧田和樹代表幹事、大橋聡司・高林幸裕副代表幹事、中沖雄常任幹事が出席した。

冒頭、開会挨拶を中部経済同友会の天野源之代表幹事が行い、続いて(株)ウェストボックス代表取締役社長の鈴木修一郎氏が「カーボンニュートラルの実現に向けて～いま企業がとるべき対応～」と題して基調講演を行った。

鈴木氏は、「脱炭素化の流れは急速に加速する。自社のみではなくバリューチェーン全体で、カーボンニュートラルの目標を設定し、データを取り削減状況を情報開示することが求められている。目標を設定するだけではなく実効性担保が必要である。適切に対応ができれば企業のあらたな強みになるし、できなければリスクとなる」とカーボンニュートラルの取組みの必要性



を力説した。

その後、各地同友会の発表が行われ、当会からは高林副代表幹事が、委員会構成を見直し新たに「ESG 経営小委員会」を設置し、GX（グリーン・トランスフォーメーション）等の知見を深める活動を展開していることや、海外経済視察において再生可能エネルギー100%で電力をまかなうアイスランド等を訪問したことなどを紹介した。

終わりに、中部経済同友会の宮崎直樹代表幹事が閉会の挨拶を行った。懇親会も開催された。



県都の未来ビジョンを考える

— 富山県庁周辺エリアマネジメント懇話会が発足 —

富山経済同友会の呼びかけにより、10月27日(金)、富山県庁周辺エリアマネジメント懇話会が発足し、富山県民会館において第1回懇話会を開催した。

本懇話会は、県内全域にぎわい創出にも資するよう、県都の玄関口である富山駅周辺と中心商業地区との中間に位置する県庁周辺エリアの魅力や価値を向上させ、県都の格を高めるため、10年後20年後のビジョンを取りまとめることを目的としている。牧田代表幹事が座長を務め、委員には、品川祐一郎 富山商工会議所副会頭、齋藤滋 富山大学学長、



牧田代表幹事

有識者として西村幸夫 東京大学名誉教授／國學院大學教授、難波悠 東洋大学大学院教授、特別委員として新田八朗富山県知事、藤井裕久富山市長が名を連ねる。

当日は、まず、座長の牧田代表幹事が、「経済界と行政が連携しながら、県庁周辺エリアを県の顔となるような賑わいある地域にするべく、未来ビジョンについて自由に懇話していきたい」と挨拶。次に、西村教授・難波教授からエリアマネジメントの重要性や先進事例について説明があった後、出席者間でエリアの課題や将来像について忌憚ない意見が述べられた。





経営科学を思考の軸とした地域企業再生

— 第2回企業経営委員会（拡大委員会） —

第2回企業経営委員会拡大委員会（高木悦郎委員長）を9月13日(水)、富山電気ビルディングで開催し、会員約120名が参加した。

今回は会員企業による事例発表として、NiX JAPAN (株)の市森友明取締役社長が「経営科学を思考の軸とした『地域企業再生』の一考察～『多様性』と『分散』の経営による成長は如何に～」と題し、講演を行った。

市森社長は、入社時の2003年には売上高を超える有利子負債により倒産寸前だった同社を再生させ、年平均14%超の成長率で売上を4.5億円から63.6億円まで拡大した自身の経営について、経営科学による視点から論理的に説明した。

2003年当時、同社はインフラ技術サービス分野の一事業に集中展開していたが、国家予算の減少に伴う売上の減少により、多額の負債の返済が困難を極めていた。返済原資を確保すべく、インフラサービスの一分野に「選択と集中」するのではなく、収益を再投資し、他分野への展開を図り売上を拡大する「トップライン経営」に邁進した。さらには、既存事業分野の競争力を高める（「知



市森社長



高木委員長

の深化」だけでなく、そこで得た収益をもとに、ストック収入が得られる発電所事業やDX事業といった、従来の同社の「認知の外側」にある異業種分野に踏み出し（「知の探索」）、経営の多様性と分散を図ることで事業ポートフォリオを形成した。

また、市森社長は、変化が激しい時代においては、効率的かつ短期間に規模拡大を行うためにはM&Aが効果的と考え、13社の同業・異業種企業の買収を行った。M&Aには、情報の非対称性が伴うが、情報の開示度が低い企業ほど買収額が低く、かつ、買収後の伸びしろが期待できる、また、M&Aにより事業分野が分散されるとともに、様々な出身地・経歴の社員が共に働く人口統計学的多様性と認知的多様性が生じることで、変化の激しい時代に対応できる多面的な視点が生まれると語った。

さらには、ビジネスのリスク判断において、多くの経営者は、その経験に縛られる「限定された合理性」による経営判断を行う傾向にあり、認知の範囲外に出て、未知の経験を積むことが重要であると語った。

最後に、市森社長は「経営理論は正解を見つけるものではないが、経営理論を思考の軸とすることで、考えを深め、広げることができる。すなわち、複雑かつ不確実なビジネス環境において、常に経営判断を求められる経営者にとって、その事象をある角度から考え、その判断に対する論理的説明を与えてくれる。これが経営科学の意義である」と語り講演を締めくくった。



まちづくりの先進事例を視察

— 広島と松山へ — 地域創生委員会

10月2日(月)～4日(水)、第2回地域創生委員会(池田治郎委員長)を開催し、委員ら25名が参加した。今次活動テーマである「魅力あふれる持続可能なまちづくり」の調査・研究の一環として、広島市・松山市におけるまちづくり先進事例を視察したものであり、「産学官連携のあり方」「持続可能なエリアマネジメント」「魅力ある都市デザイン」の3つのポイントについて、意見交換やヒアリング、現地視察を通し、参加者各々が知見を深める有意義な機会となった。

10月2日(月)：広島経済同友会 まちづくり委員会 棕田委員長との意見交換会



まず、一行は、広島経済同友会において県全域を視野に入れた「まちづくり」の観点から広島県の優位性の最大化を推進する「まちづくり委員会」の取組について、棕田委員長より説明を受けた。棕田委員長は、地域の魅力向上のためには、オール広島での地域間連携が必要として、都心部と中山間地域の連携に向けた課題への解決策等、様々な取組事例を紹介した。

また、棕田委員長は、まちづくり委員会の提言を端緒として設立され自身が会



長を務める「広島都心会議」の取組についても説明。地域のエリアマネジメント団体と行政の中間に位置するプラットフォームであり、産官学民が連携し都心活性化を推進するための“補助エンジン”である広島都心会議にて策定された「ミライビジョン」やそれに基づく具体的なアクション事例が紹介された。

棕田委員長からの説明を受け、当会会員からは、広島の先進事例を富山の地でどう活かすべきかとの観点から質疑が挙がり、活発な意見交換がなされた。

10月2日(月)：広島都心 現地視察

次に、一行は、広島市が進める「楕円形の都心づくり」において“核”と位置付けられる「紙屋町エリア」および「広島駅周辺」を視察した。



紙屋町エリアの現地視察に先立ち、まちづくり委員会の中村副委員長が視察エリアについて説明。一行は、エリアの開発コンセプト等の情報を踏まえたうえで現地へ赴き、旧市民球場跡地に整備されたHIROSHIMA GATE PARKをはじめとした紙屋町エリア一帯を歩いて巡り、広島都心全体の回遊性や賑わいのより一層の向上を目指す都心の開発状況を視察した。



続いて、一行は、JR広島駅周辺へ移動。駅南口エリアでは、JR西日本が実施する駅ビル建替と連携し、路面電車の新駅ビル2階レベルへの高架での進入やペデストリアンデッキの設置等の再整備工事が進められており、バス乗降

場の増設や歩行者ネットワークの構築等による沿線地域の利便性確保・回遊性向上および賑わい創出が期待されている。一行は、工事概要について説明を受けた後、実際に現地で再整備状況を見学した。



10月3日(火)：松山市および松山アーバンデザインセンターへのヒアリング

翌日、一行は広島市から松山市へ移動。松山では、最初に、持続可能な「歩いて暮らせるまち松山」実現に向けた取組を実践する松山市および松山アーバンデザインセンター（以下、UDCM）へのヒアリングを実施した。



まず、松山市 都市整備部 都市・交通計画課の柚山主幹より、松山市の概要と現状について、また、それを踏まえ「歩いて暮らせるまちづくり」を目指した背景やコンセプト等について説明があった後、具体的な取組事例として、道路空間の再配分・歩行者空間の整備や官民連携の景観形成等、来街者の回遊性向上や賑わい空間

の創出に資する都市整備の取組が紹介された。

その後、続けて、課題解決型



＝未来創造型まちづくりのためのプラットフォームであるUDCMの渡邊ディレクターからレクチャーを受けた。まず、UDCMの公民学連携での運営体制について説明があった後、UDCMが担う4つの役割（「創る」「交わる」「学ぶ」「知る」）に即して、賑わいの創出やまちづくりの担い手育成、情報発信等の取組について紹介がなされた。

両者からの説明を踏まえ、当会会員からは、公民学連携でのエリアマネジメントのあり方等、様々な観点から質疑が挙がり、知見を深める有意義な機会となった。

10月3日(火)：松山市内 現地視察

最後に、一行は、ヒアリングで挙げた松山市の現地事例を視察。UDCMが運営するまちづくり拠点である「もぶるラウンジ」を見学し、また、花園町通り・ロープウェイ通り等の市内の空間整備エリアを実際に歩いて巡った。この2km程のまち歩き行程において、一行は、整備事例の視察にとどまらず、「歩いて暮らせるまちづくり」を体感した。



まちづくりを通して交流を深化

— 広島経済同友会と交流 —

10月2日(月)、広島経済同友会との交流会をANAクラウンプラザホテル広島(広島市)にて開催した。当会からは麦野英順・牧田和樹両代表幹事、高林幸裕副代表幹事、池田治郎地域創生委員長をはじめ会員ら24名が、広島経済同友会からは田村興造特別幹事、武田龍雄代表幹事、椋田昌夫まちづくり委員長をはじめ会員8名が、それぞれ参加した。

開会挨拶では、麦野代表幹事が「まずは、今回の当会視察を快くお受けいただくとともに多大なご協力を賜り感謝申し上げます。これを機に、両会の交流を一層深めていきたい」と述べ、武田代表幹事が「心より歓迎申し上げます。ここ広島の地で両会の交流会を開催できることを大変嬉しく思う。両会の活動内容について活発に意見交換したい」と応じた。



麦野代表幹事

広島経済同友会
武田代表幹事

また、田村特別幹事が「富山経済同友会とは、2015年に、まちづくり委員会の前身である都市機能委員会として、当時の富山の地域活性化委員会と意見交換をした経緯があり、非

常に深いご縁を感じている。両会の益々の発展および交流の深化を祈念する」と発声し乾杯した。

閉会挨拶では、牧田代表幹事が「まちづくりに関して両会が以前から互いに連携してきた背景を知り非常に感慨深い。今後ともこの繋がりを大切に、次はまた富山にお越しいただきたい」と呼びかけ、椋田まちづくり委員長が「ぜひ富山に伺いたい。賑わい・人流のある魅力あふれるまちづくり、若者が住みたくなるまちづくりに、両会連携して引き続き取り組んでいきたい」と再びの交流を誓った。



広島経済同友会
田村特別幹事



牧田代表幹事

広島経済同友会
椋田まちづくり委員長

まちづくり先進事例視察を機に開催した交流会は、今後の更なる交流深化を約しつつ、盛会のうちに終了した。





仲間と共に挑戦しよう！

～ スケッチオーデション2023開幕～

●スケッチオーデションとは・・・

富山経済同友会（アントレプレナーシップ小委員会）、とやま未来共創チーム、富山ニュービジネス協議会、富山大学が共催する地域人材の育成・発掘を主目的としたビジネスプランコンテスト。

最大の特徴はコンテスト本番ではなく、新たな事業を志す挑戦者とメンターによる「仲間と学びあい支えあう」をコンセプトとして、2024年3月17日(日)の決勝大会に向けてビジネスプランの考え方のインプットと、アイデアをブラッ

シュアップする過程を重視した珍しいイベントである。

プログラムの総合プロデューサーは昨年に引き続き富田 欣和氏（関西学院大学 経営戦略研究科 教授）が務め、講師は過去大会参加者や決勝大会の審査委員が務める。

挑戦者とメンターを募集したところ、今回は総勢79名（挑戦者60名、メンター19名）からの申込みがあった。

● Day 0〔9月23日(土)〕

スケッチオーデションへの挑戦を迷っている参加者に向けたイベントとして、プレイベント（Day 0）がスケッチオーデション本番に先立って開催され、約50人の参加があった。

担当役員である中澤常任幹事より開会の挨拶があり、「タフなコマもあるが、シリーズを通して離脱せずに最後まで頑張りたい。この機会であ会った結びつき、仲間意識はこれからも大切にしたい」と挨拶があった後、富山未来共創チームの中村氏よりスケッチオーデションの概要説明が行われた。



中澤常任幹事

続いて、メインプログラムとして特別講師に西方 篤敬氏※（英語 YouTuber Atsueigo）が、『実力 No.1 英語 You Tuber が語る“自分の成長を生み出す力”』と題し富田氏と対談を行った。

「異なる環境に飛び込もうとアクションするまでに壁やハードルはないか？」という富田氏からの問いに対しては、「人と違うことをする

のが好きで、それが自分の強みになると思う。人と違うことを組み合わせることによって比較対象をなくしていけば、競争に巻き込まれなくなっていく。それが今の自分にもつながっている。」と西方氏自身の考えを話した。



西方 氏

また、セルフイメージについては、「やりたいことが何も見えていないのだったらまずはチャレンジしてみたら楽しいし、それによって見えてくる



村上委員長

ものもあるので、ぜひ（スケッチオーデションに）挑戦してみたらいい。」と参加者に熱く語りかけた。

その後は、質疑応答のほか、過去大会参加者の寺井大輔氏、前回大会優勝者の森佑太氏の近況報告や、富田氏、村上 宏康委員長を交えた4名によるパネルディスカッションも開催され、プレイベントは盛会のうちに終了した。

— ※ 西方 篤敬氏 プロフィール —

大学受験勉強をきっかけに本格的に英語学習を開始。オーストラリア国立大学会計学修士を成績優秀で修了した後、デロイト・ウェルシュ・トーマツ・メルボルン事務所に約5年間勤務し、マネージャーを経て独立。現在は英語 YouTube チャンネル Atsueigo を軸に、書籍、アプリ、スクール等の事業を展開、YouTube 登録者数は56万人。

● Day 1〔10月21日(土)〕

開講初日となる Day 1 は富山大学五福キャンパス内で開催された。

まず主催団体の代表として麦野代表幹事から、「若い方や、女性も多く参加いただいております、大変頼もしい。審査員には現役のスタートアップ企業の経営者も参加しており、大変いい機会になる。仲間づくりがテーマでもあるので切磋琢磨して、語り合ってください。」と開講挨拶が行われた。村上委員長からは「地域を良くしたい、若い人達の為に何かしたいと考える方々の思いからこのプログラムが提供されているので、皆さんで盛り上げていきましょう。」と挨拶があった。



麦野代表幹事



村上委員長

その後、富田氏による講義を実施。まず、日本は他の国と比べ繋がりが希薄であることを説明し、「ビジネス」とは「仲間づくり」をすることであると説いた上で、他の参加者や、メンターとの



富田 総合プロデューサー

チームビルディングが必要であると訴えた。チームビルディングの一つとして、「ヘリウムリング」を挙げ、参加者がチームとなって実践した。10人が一組となり、指に乗せたフラフープを胸元から地面に降ろすだけの一見単純な作業に見えるが、いざやってみると10人で支えるフラフープは思ったように下げることが出来ず、一同悪戦苦闘した。振り返りをする中で解

決方法をディスカッションし、チームワークを深め、再度ヘリウムリングをやってみると成功するチームも数チームあり、実



ヘリウムリングの様子

際にチームビルディングのフェーズがどのように移り変わるか身をもって感じ、チームとして課題解決することの重要性を体感することが出来た。

続いて妄想力と構想力について説明。妄想があつて構想が形になると説き、妄想の重要性を説明。妄想力を鍛えるためにはインプットとアウトプットを反復することが重要であると伝え、グループになり自身の妄想と構想を語り合った。

5時間もの長丁場であったが、参加者は疲れた顔も見せず笑顔で会場を後にした。また、参加者からは「年齢、バックグラウンドの違う多くの方と話をする機会があり、とても刺激となった。このような仲間たちとこれから活動出来ることが大変楽しみである」といった意見が多く寄せられ、とても有意義で充実した Day 1 となった。



熱心に聞き入る参加者

■次回以降のスケジュール（1月まで） ※ 3月のDay 8まで実施

回数	日時	会場
Day 2	2023/11/11(土) 13 - 18 時	富山大学五福キャンパス 共通教育棟 D21 番教室、D22 番教室
Day 3	2023/12/ 2 (土) 13 - 18 時	富山大学五福キャンパス 共通教育棟 D21 番教室、D22 番教室
Day 4	2023/12/16(土) 13 - 18 時	富山大学五福キャンパス 経済学部棟 101 教室、102 教室、107 教室
Day 5	2023/ 1 /20(土) 13 - 18 時	富山大学五福キャンパス 都市デザイン学部総合教育棟 35 講義室、36 講義室

委員会活動の情報共有

— 第 2 回 委員長連絡会議 —

10月6日(金)、委員長相互の情報共有・連携・啓発を目的として、第2回委員長連絡会議（高林幸裕企画委員長）を開催し、委員長6名が参加した。

高林委員長の挨拶の後、各委員長が上期の活動実績および下期の活動計画を説明。どの委員会からも活発な取組状況が報告された。

そして、会議終盤では、今年度からスタートした今次の委員会運営のあり方について委員長

間で議論がなされた。現状の課題があらためて相互に共有された後、課題解決に向けて忌憚のない意見が交わされ、委員会活動の更なる質向上につながる非常に意義深い会議となった。



支援に向けて活発に議論を交わす

— 第 2 回 アスリート支援小委員会 —

10月23日(月)、第2回アスリート支援小委員会（遠藤忠洋委員長）を、事務局会議室で開催し、会員16名が参加した。開会の挨拶で遠藤委員長が「第1回委員会では、佐藤寿人氏を招き、プロアスリートの現状を聞いた。今後は、委員会で、富山プロスポーツ選手と企業とが、相思相愛の形でマッチングができるような仕組みづくりができ



遠藤委員長

ればと考えている。委員会で皆様と一緒に議論しながら、結果を出せるように進めていきたい。」と挨拶。今年度の活動方針とスケジュールについて説明し、出席者は自己紹介の中で、それぞれのアスリート支援への思いを語り、取り組む活動内容や活動方針について意見を交わした。



来年度の海外経済視察について検討

～ 第 2 回 交流委員会 ～

10月27日(金)、第2回交流委員会（中沖雄委員長）を事務局会議室で開催し、委員9人と大橋聡司担当役員が参加し、今年度の海外経済視察（行き先：オランダ・アイスランド、期間：7月27日～8月3日）の振り返りと来年度の海外経済視察のテーマ・行き先などについて検討した。

冒頭、中沖委員長と大橋担当役員が挨拶を行ったのち、議題に入った。

今年度の海外経済視察のアンケート調査結果についての事務局報告の後、委員からは、事前にしっかり勉強しておくことでより充実した



中沖委員長

視察になる、視察テーマを明確にし、テーマに沿った訪問先を選定すること等、積極的な意見が出された。

その後、来年度の海外経済視察の時期、テーマ・行き先について意見交換した。パリ・オリンピック等の様々なイベント・行事等を避けて時期を設定するとともに、テーマ・行き先については、地政学リスクに配慮し、カーボンニュートラル・GX、EV・DX等における先進的な取組み、日本経済の成長に寄与する観点から選定することとした。





働くこと、生きることの意義を伝える

— 課外授業講師派遣 —

第5回 富山県立砺波高等学校

8月25日(金)、尾崎浩二氏(株みずほ銀行富山支店長)、三原克久氏(三菱商事株北陸支店長)が富山県立砺波高等学校で開催された職業理解講座「エキスパートに学ぶ」において、1学年の生徒を対象に課外授業を行った。

<尾崎 浩二 氏 株みずほ銀行富山支店長>

尾崎支店長は「銀行の仕事について」と題し、銀行業務を切り口に、今日の経済情勢や高校時代に身に付けておくべき力など、多岐にわたって講演を行った。

尾崎支店長は最初に、基本的な金融の役目から、みずほ銀行が全国や海外に展開する意義、尾崎支店長自身の業務まで、銀行の業務に関する様々な内容について説明した。中でも、都市銀行はお金の融通を通して、地方と全国、海外の人と人とを結びつける役割を担っているという説明は強く生徒の関心を引いた。

そして、将来の進路を考える上で高校時代に身に付けておくべき力として、海外との業務に必要な英語力、提案書を作成するための国語力、人と関わるためのコミュニケーション力などを挙げた。

また、銀行で働くうえでの苦勞として、「様々な業種のことを幅広く学ぶ必要があること、数年ごとに転勤があること」などを挙げつつ、こ

れらの苦勞を「日本の産業に幅広く触れることができる、転勤の都度新しい人間関係を築くことができる」など、別の切り口でポジティブに捉える姿勢は、生徒にとって大きな学びとなった。

講話後の質疑応答の時間には、生徒たちから多くの質問が寄せられた。「大きなお金を動かす上で各種経済動向の予測を的中させるには？」という生徒の質問には、「専門家でも予測するのは難しい。銀行では、いろいろな情報を集めて、これが正しいだろうというストーリーを作るがなかなかその通りにもならないので、別のストーリーも想定し、不測の事態にすぐに対応できるように準備している。」と回答した。



<三原 克久 氏 三菱商事株北陸支店長>

三原支店長は「商社の仕事とは」と題し、「1. プロフィール紹介」「2. 商社の仕事とは？／三菱商事の業務概要」「3. 商社の仕事とは？／私の経験談」「4. 国際化するビジネス社会で役立つ力」という4つの柱のもとで講演した。

最初の商社の業務概要の説明では、商社が、従来の「会社と会社の間立ち、仲介手数料・金融手数料を得る：仲介（貿易）事業者」から、「業界全体を見渡し、取引先・投資先の競争力強化・企業価値向上を支援する：総合事業会社」へと変化してきたこと、そして、今の商社は、常に社会の課題やニーズに向き合いながら変化し、それらを解決する形でビジネスを展開していることを具体的な事業を紹介しながら説明した。また、三菱商事は、三綱領（「所期奉公」「処事光明」「立業貿易」）というグループの共通理念のもとに社会的意義ある事業取組みを進めており、これから先も地域産業と地域社会に向き

合いながら課題解決に貢献していきたいと力強く話した。

その後、豊富な海外勤務経験から、滞在各国の文化的特徴を、クイズを交えて紹介し、生徒たちは強く関心を持った。

最後に、各国における経験から得た知見をもとに「国際化するビジネス社会で役立つ力」として、「異文化への理解」「インテリジェンス（情報収集）につなげるためのコミュニケーション能力」などを挙げた。そして、「『想像』から『創造』」をキーワードとし「自由な発想を持ち、自らに限界を設けることなくチャレンジすることが大切だ」と強調、授業を締めくくった。



第6回 富山県立入善高等学校

9月8日(金)、富山県立入善高等学校において、1学年189名に対して、大橋聡司氏(大高建設(株)取締役社長)、川合紀子氏(有)ステップアップ代表取締役)、東出悦子氏(株)アイベック代表取締役)、益田貴司氏(ブリーズベイオペレーション3号(株)(ホテルグランテラス富山)執行役)、若林健嗣氏(日本海電業(株)代表取締役)の5氏が課外授業を行った。

<大橋 聡司 氏 大高建設(株)取締役社長>

大橋社長は「働くこと、よりよく生きること」と題し課外授業を行った。

大橋社長は冒頭、自社の事業を紹介するとともに、SDGs 達成に向けた会社運営や、高度外国人材の活用、DX 化・メタバース活用による働きやすい環境づくり、SNS を活用した情報発信など、自社の様々な取組み内容を紹介した。

次に、働くために身に付けておくべき力について説明した。将来多くの仕事がAI やロボットに取って代わられることが予測される中、協調性、誠実性、勤勉さ、熱意などの非認知能力、すなわち「人間力」が大切であり、特に、周りの人とコミュニケーションを取り周囲を巻き込んで協働することは人間にしかできないことだと強調した。さらに、「経験する力」も大切であると説き、失敗しても得るものが必ずあるので、失敗を恐れずにチャレンジし、どんどん失敗して失敗から学び、次に生かすことが大切だと語った。

続いて、「働く」は「傍(を)楽(にする)」ことだと紹介したうえで、「人は生きるためのお金を得る目的で働く。働くのは自分のためだが、同時に周り(顧客)のために働いて、顧客を満足させるような価値を提供することで結果として自分に良い形で返ってくる」と説明した。

最後に、よりよく生きるためのアドバイスとして、物事を多面的・長期的に考え、物事の表面ではなく根本・本質を探る、「多長根で物事を考える」べきだと語った。そして、「皆さんのこれからの人生には可能性が無限にある。自分自身で道を切り拓いていってほしい」とエールを送り授業を締めくくった。



<川合 紀子 氏 (有)ステップアップ代表取締役>

川合代表は、「君たちはどう生きたいか」と題し課外授業を行った。

冒頭、川合代表は「君たちはどう生きるか」と「君たちはどう生きたいか」の言葉の違いについて生徒に質問し、生徒の回答を確認したうえで、「将来どうなりたいか」「どんな社会になってほしいか」「日本はどのような未来に向かっているか」を問いかけた。そして、日本の現状を「労働力人口が減少する中、政府は Society5.0 を実現し、IoT、AI、ロボットを活用して生産性を劇的に押し上げようとしている。技術の急速な進歩と共に世の中が今まで以上に急速に変化し、将来が不確実で予測できない VUCA の時代に突入する。VUCA の時代は、想定外の出来事が次々と起こり、業界の概念を覆すサービスが登場し、今までの常識が非常識になる時代だ」と説明した。

続いて、VUCA の時代を生きるために求められる力として、「自らの頭で考える力」：AI にはできない、人間の感性・経験により創造的なアイデアを生み出す能力、「OODA (ウーダ)」：今起こっている課題を観察し (Observe)、状況

判断し (Orient)、意思決定し (Decide)、実行する (Act)、OODA のループを回すこと、などを紹介した。

そして、生徒たちが今から備えていくべき能力は、システム思考力：複雑な関係性を理解する力、予測力：多様な未来を理解し評価する力、協働力：他者から学び他者と共感して問題を解決する力、批判的思考力：先入観にとらわれずに情報を客観的に評価し、論理的に考える力であると説いた。

最後に、「様々なことに興味を持ち、日々アンテナを張って情報収集し、自分なりに咀嚼し、自分の価値観、判断基準を持ってほしい。自発的に考え、行動するよう日々心掛けてほしい。」とアドバイスをした後、『『君たちはどう生きたいか』考えてみましょう』と投げかけて授業を終えた。



<東出 悦子 氏 (株)アイベック代表取締役>

東出代表は、「自由に楽しく幸せに生きる」と題し課外授業を行った。

東出代表は、稲盛和夫氏の方程式「人生・仕事の結果＝考え方×熱意×能力」を紹介。熱意と能力は0から100までだが、考え方は-100から+100まであり、熱意や能力が高くても悪い考えを持っていると悪い方向に行ってしまう。良い考えを意識することが幸せに生きることに繋がる」と説明した。

そして、熱意について、「興味のあることに取り組むときはエネルギーが湧いてきて大変な時も苦ではなくなる。目標を持ち一生懸命取り組むことで熱意が湧いてきて楽しくなる。例えば、勉強が楽しくなかったとしても『勉強すれば自分の目標に近づくことができる』と考え方を变えることで熱意を高めることができる。熱意を高めるような考え方をして人生を楽しくしてほしい」と述べた。

能力については、「一人一人が大きな能力を持っているので、様々なことにチャレンジして

自分の能力を探してほしい。『自分は勉強ができないから』などと自分の可能性に制限をかけないでほしい。能力に制限はなく、選択肢は無限にある。皆さんは自由だ」と熱く語った。

また、「世界で一番大切な人は誰？」と問いかけたうえで、「一番大切なのは自分自身。だが、自分だけが良いというのはダメ。自分を大切にすると共に人を大切にし、思いやりを持ってほしい」と説いた。

最後に「マイナスな考えを持つと心が痛む。そういう気持ちで物事に取り組んでも良い結果にはならない。良い考えを持ち、目標に向かって楽しんで、自分の能力を自分で探す。これが幸せになるためにやらなければならないことだ」とアドバイスし授業を締めくくった。



<益田 貴司 氏 ブリーズベイオペレーション 3号(株) (ホテルグランテラス富山) 執行役>

益田執行役は、「今後のホテル業と地域への貢献」と題し課外授業を行った。

益田執行役は、自己紹介の後、自身が取り組むホテル再生業について説明した。コロナ禍や後継者不在などで運営が難しくなったホテルを経営して利益を確保することで、雇用を守ることができる。イベントを企画して地元の人に喜んでもらったり、客に「また来たい」と思ってもらえるようなおもてなしをして再び足を運んでもらうことも地域貢献に繋がると語った。

また、今後のホテル業について、「コロナで大打撃を受けたが、既に訪日外国人がコロナ前の水準に戻りつつあり、今後も大阪万博などで訪日外国人が増える。富山にも魅力的な観光スポットが多くあるので、北陸新幹線の延伸も追い風となって多くの外国人が訪れるだろう。サービス業の求人が増えるので、皆さんの中にもサービス業に就く人がいるかもしれない」と述べた。

続いて、サービス業で働くうえで大切なことは、「おもてなしの心」、相手が思っていることを感じ取って、行動に移してあげることだと説明したうえで、生徒へのアドバイスとして、「人が困っていることに気付いたら思い切って行動に移してほしい」と自身の過去のエピソードを交えながら語った。

最後に、「高校時代は一生の友達に出会える貴重な時期。あっという間に過ぎてしまうので楽しんで充実した高校生活を送ってほしい。そして、気付いたことがあれば、小さなことでもいいから行動に移してほしい。その行動で相手や自分の人生を変えられるかもしれない」と強調し授業を締めくくった。



<若林 健嗣 氏 日本海電業(株)代表取締役>

若林代表は、「デジタルツインから考える『自分』を生きること」と題し課外授業を行った。

若林代表は冒頭、仮想空間に現実空間の情報を複製して再現する「デジタルツイン」の技術について、「今まで人間が蓄積してきた知識や技術の結晶であり、自動運転のAI学習や医療分野への活用など期待が大きい。デジタルツインが今後どのように社会に影響を及ぼしていくと、1人の非凡な天才が生み出したものではなく、世界中の様々な動機を持つ人々が関わり合って生まれたものだ」と覚えておいてほしい」と語った。

次に、コンピュータの進歩により計算技術がめまぐるしく進歩している時代だからこそ、「人間の感覚」が求められていると感覚の大切さを説いた。「感覚は、科学では説明できず、デジタルツインでも再現できない。感覚という生き物らしい部分はデジタル化で消えていくのではなく、今後ますます大事になる。感覚とはイメージする力。イメージする力は人間の原動力。

人間の感覚と計算が相互に補い合うことで予想を超えた進歩が生まれ、デジタルツインのような高度な技術に繋がっていく」と述べた。

最後に、「感覚」の磨き方について、「感覚はデータのように積み上げて継承することはできず、人の一生の中で終わってしまう。感覚は人が生きる中で、いろいろな経験を通して磨くものであり、生きる速度に合わせてしか磨かれない。磨くことで自分の中にブレない「軸」が形成され、情報洪水の中でも流されずに『自分』を生きられるようになる。若いうちから同じ時代を生きる仲間と共に感覚を磨いてほしい」とアドバイスし、授業を終えた。



第7回 富山県立雄峰高等学校

9月15日(金)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長)が富山県立雄峰高等学校にて3年次生約50名を前に「よりよく生きる」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長ははじめに、「貨幣経済を生きるためにはお金が必要で、お金を得る第一歩が働くということだ」と述べた。そして、働き方には正規雇用と非正規雇用の2つがあると説明したうえで、「非正規雇用は年齢を重ねても給料が上がりにくい、正規雇用は会社が社員を教育するのでスキルが身につく、成長もでき、給料も上がる。若い時は正規と非正規の差が小さくても年齢を重ねるにつれ大きな差が生じる。これからの人生を考える際には、正規雇用の道を考えてほしい」と正規雇用を選択する重要性を強調した。

次に、社会に出て生きていくコツとして、自分以外の周りの人々を思いやることの大切さを説いたうえで、「社会に出ると自分と他人との

心のぶつかり合いが必ず生じる。これを解決することが社会で何事もスムーズにやっていくコツ。自分本位ではなく、自分の言動が他人にどう受け取られるかを考えて行動してほしい。そうすると必ず周りに人が集まり幸せに生きることができる」と語った。

続けて、就職先を考える生徒たちへ「仕事を選ぶとき、『職業』に捉われると選択肢が狭くなる。『誰のため、何の役に立ちたいか』を考えて目的を持つことで、職業の選択肢は無限に広がる」とアドバイスした。

最後に、「人生は一度しかない。限られた時間を有効に使い充実した人生を送ってほしい」と熱く語り授業を締めくくった。



第8回 富山県立魚津高等学校

9月23日(土)、遊道義則氏(株)ユニオンランチ取締役社長)が富山県立魚津高等学校にて、1学年160名を対象に「生きるということ～人生って何なんだろう～」と題して課外授業を行った。

遊道社長は、まず、「言葉」の不思議さ、大切さについて話した。「われわれは、『自分が言葉を統御している』と考えがちであるが、しかし、われわれが『言葉によって支配され統御されている』のである」という、イギリスの哲学者フランシス・ベーコンの言葉を引用し、意図的に言葉を自分で選んで発することが大事であるとした。「例えば、夢について、〇〇になる。〇〇する。と肯定的に言い切ることで、そうなる可能性を高める第一歩になり、自分自身を鼓舞することができる」と生徒たちに熱く語った。

次に、人生で大事なことを8つ挙げた。まず前半4つ、①人生は選択の連続であり、自分で決めること。②自分の体験を人と分かち合うこと。③まずは自分に対して、そして他人に対して正直であること。④自分で作っている制限に気づき、冒険・挑戦し、突破すること、を説明した。

さらに、まとめとして働くこと、生きること

の意義について語った。新型コロナウイルスの拡散、ロシアのウクライナ侵攻など、近年の世界情勢を踏まえて、日本人の労働観の変化だけでなく、日本の国としての弱体化も懸念した。人の役に立たない仕事はないこと、地域に貢献する仕事も不可欠であると説いた。また、生きることに関連付けて、人生で大事なことの後半4つを挙げた。⑤やらない言い訳をしたり、先送りしたりせずに、とにかくやること。⑥全身全霊で取り組み、集中すること。⑦協力することで成長し、共に成果を作り、信頼関係を築くこと。⑧責任を取ること。である。

最後に、人生で大事なこと8つをもう一度振り返り、「他人や運任せにせず、自分の人生、自分が自分に何をしてあげられるか考え、大人になった時に、自分の人生について腹をくくるつもりでやってほしい」と訴えて、授業を終えた。



次世代を担う教員へのメッセージ

～ 富山市中堅教諭等資質向上研修で講演 ～

8月22日(火)、伊東潤一郎氏(アイティオ(株)取締役社長)、村上宏康氏(株)ワプラス代表取締役)、茂住昌子氏(株)Snow Fox Japan代表取締役)、山野昌道氏(株)チューリップテレビ取締役社長)の4氏が、経験年数11年目の教員62名を対象とした中堅教諭等資質向上研修(富山市教育委員会主催)にて「組織のリーダーとは」「若手の育成」をテーマに講演を行った。



<伊東 潤一郎 氏>

伊東社長ははじめに、「人生を24時間に例えたら小中学生は夜中の3時頃。一日元気に過ごすための準備をする時間。小中学校の教員は、一日の準備をする子どもたちを日々相手にしていることを意識してほしい」と語り始めた。

次に、自社の企業理念を紹介しながら、「会社には必ず何を目指して働くのかを示した企業理念がある。学校も同様に目指す方向を打ち出すことが大切だが、今の学校は、目指す方向を教員、子どもたち共に理解していないのではないか」と問題提起した。

さらに、会社が存在するためには、「CS：顧客

満足」「ES：社員満足」「SS：社会貢献」の3つの満足が必要であると説明したうえで、これを学校現場に置き換えた場合、「学校にとって顧客は誰か?」を受講者に尋ねた。受講者は、顧客は「子ども・保護者」、商品は「教育」と答えたが、伊東社長は、顧客は「社会」、商品は「子ども」と考えることを提案した。そして、その場合、教師にとってのCSは、社会に「人財(人に変化を与えることができる人)」を供給することであると説いた。

最後に、「現在、学校では問題に対して一つの答えを出すことを求める風潮がある。また、何か問題が起きても気づきや行動を起こさないことが増えている。気づきを得るためには、子どもの頃を思い出し、素直になること、何事にも好奇心をもつこと、自らの成長を意識することが必要」とアドバイスし、講演を締めくくった。



<村上 宏康 氏>

村上代表ははじめに受講者に富山県民の印象を尋ねた。受講者が「富山県人は保守的で謙虚で控えめ」と答えたところ、村上代表はそれを否定したうえで、若者たちにも夢はあるのに、「本音を言うとはぶかれる、想いを言うと叩かれる、夢を語ると笑われる」という環境が、若者たちに本音・思い・夢を語れなくさせてしまっているのだと語り、受講者に対し「夢を語れる環境をつくる」ことの大切さを訴えた。

次に、急速に変化している世界では、偏差値の高い学校に進学して大企業に進学しても必ずしも幸せにはなれない、自分がやりたいことを達成するために学び、自発的に行動することが欠かせないと説

明した。そして、夢を笑わず応援し、自分で考えて行動する若者たちを育てるためには、

- ・まず行動すること。大胆に行動し、進んで失敗して学ぶこと
- ・失敗を恐れず、何もしないことこそを恐れる気持ちをもってチャレンジすること

ができる社会や大人でなければならず、学校も例外ではないと強調した。

最後に、何かを始めるためには、「マインドセット(=アントレプレナーシップ。新しいことを創造しリスクに挑戦する姿勢)」と「仲間(=プランを基にした夢を応援し合える存在)」が大切であることを説いたうえで、「まず自分が変わらなければならない。矢印を自分に向けて振り返ることで気づきが生まれる。行動することで状況はよい方向に変化していく」と、一人一人が意識改革することの大切さを熱く説き、講演を終えた。



<茂住 昌子 氏>

茂住代表はまず、自分にあった場所を見つけるためにトライ＆エラーを恐れずに何度でも輝ける場所を探し続けることの大事さを語り、「海外に行くまでに

3回会社を変え、その中でプログラマーを経験したことが世の中の変革にいち早く気づく大きな一歩となった。15年間海外生活をした中で、北米の映画製作を通してIT業界と映像の目覚ましい発展の最先端に関わったことも会社を大きく成長させる上でキーとなった」と述べた。

次に、茂住代表が今、会社でスタッフに求めるスキルでもあり、今後ますます求められていくとしたのが、「AIに的確に指示を出すことができる人」であり、「今から5～10年後には私たちの想像もで

きないほどAIに頼る世界が広がり、利用する人間側の進化も同じスピードで求められている。そんな中、学校がAIとの共存方法を教えなければ、子どもたちは独学で学習し、良くも悪くも使いこなす方法は彼ら次第になる。教育現場にいる皆様が、まずChatGPTを無料体験してみて、どれほどAIが私たちの生活に役立つか、進化しているかを実感してほしい」と述べ、何らかの形で教育現場にAIと子供たちを繋ぐ正しい接点を設ける必要性を語った。

さらに、プログラミング的思考、問題解決と創造性、コミュニケーション力はAIを使いこなすには必須のスキルだが、グローバルな情報をより速く正確に得る為にも英語力の底上げが重要と説いた。

最後に茂住代表は「英語を話し、AIを使いこなし、プロジェクトを成功に導ける子どもたちを一人でも多く育てることが教育現場に求められている」と熱く語り講演を締めくくった。



<山野 昌道 氏>

山野社長ははじめに、「人生を幸せにする3つのコツ」として、「迷ったらやる」「人のせいにしない」「何をやってもうまくいく」を紹介した。その後、教員として10年が経過した今、一度立ち止まり、企業が求める人材やあるべきリーダーの姿について知り、「社会に役立つ人材を育成するため、どう児童生徒に向き合うか」「自分はどんなリーダーになるか」を考えることが本研修のゴールであると示した。

次に、「企業が求める人材」について、低成長時代、AI社会等、現在の日本が置かれている環境から、協調性、真面目さ、精神的安定性等の「性格スキル」がカギになるとし、「チームプレイができる人」「未

来を切り拓ける人」「正しい倫理観をもった人」が求められており、「誠実さ、熱意、行動力」が企業の求める資質であると説明した。

続けて、「あるべきリーダーの姿」について、リーダーの形は千差万別であるが、求められるのは、やはり「誠実さ、熱意、行動力」であり、リーダーとして大切なことは、部下を育成することに喜びを感じることにあり、愛情をもって部下を叱ったり、挑戦させたりすることであると、自身の経験も交えながら説いた。

最後に、「たくましく育てる」「未来は希望に溢れていると教える」「努力する素晴らしさを教える」を大切にして児童生徒を育成してほしいと話し、研修のゴールである「自分の願うリーダー像」を思い描くことができたかと受講者に問いかけた。そして、「中堅の自覚をもったリーダーになってほしい」と受講者にエールを送り、講演を締めくくった。

「組織におけるこれからの働き方」

稲田祐治氏が富山県教育委員会 県立学校校長研修会で講演



8月28日(月)、稲田祐治氏(株ミライノ交通観光ラボ代表取締役)が県立学校校長研修会において、県立・私立学校校長55名を対象に「組織におけるこれからの働き方」と題して講演を行った。

稲田代表は、冒頭、社会情勢と働き方の変遷について概観し、経済社会の変化に対応する形で企業が雇用管理や人材育成方針を変化させていった結果、職場では世代ごとに働き方や就業意識の差が生じていると指摘した。

次に、企業の働き方の現状について、労働時間や睡眠時間等のデータを用いて課題を洗い出し、ワーク・ライフ・バランスの観点から、男女間の生活時間のアンバランスの解消について提案を行った。

さらに稲田代表は、長時間労働の是正、柔軟な働き方がしやすい環境整備、子育て・介護等と仕事の両立や障害者の就労といったトピックを「管理者が取り組む課題」と位置づけ、長時間労働の是正のために①時間外労働の抑制②変形労働時間制の導入③フレックスタイム制の導入、柔軟な働き方がしやすい環境整備のために①テレワークの導入やIT等を使った合理的な仕事へのシフト

②ワーク・ライフ・バランスを促進する休暇制度③就業

形態の導入支援による多様な働き方の普及・促進、さらには④勤務間インターバルの導入なども含めた労働時間の適正管理⑤総合的なハラスメント対策といった処方箋を紹介した。また、教育現場の特質や公立学校特有の課題についても触れながら、私立学校での勤務時間管理の例を挙げ、公立学校において実現可能な働き方改革のアイデアを提案した。

講演を通じて稲田代表は、管理者が自身の経験に縛られることなく、時代の変化と若い世代の価値観やニーズを酌み取りながら、同じスタンスで働き方改革に取り組むことの重要性を繰り返し指摘した。そして最後に、働き方改革を推進するためには組織と家庭双方の協力が不可欠であると呼びかけ、仕事のスリム化や学校のカリキュラムに合わせたベストな働き方の追究によって、教員とその家族のウェル・ビーイングが実現されることを期待していると述べ、講演を締めくくった。

第85回あけぼの会ゴルフコンペ

— 優勝は木下 実 氏 —

9月9日(土)、呉羽カントリークラブ日本海コースにて第85回ゴルフコンペを開催し、58名のあけぼの会会員が晴天の下、熱戦を繰り広げた。

懇親会は長崎衛世話人進行のもと、麦野代表幹事の挨拶と中尾特別顧問の乾杯で始まり、盛り上がりのうちに表彰式へと続いた。

優勝の栄冠はネット70.8で木下実氏(木下法律事務所)が獲得、麦野代表幹事から優勝賞品と記念品の富山ガラス工房の花器が手渡された。



優勝の弁で木下氏は「1年前は惜しくも2位でありいつかはと思っていたところ、天候と同伴者に恵まれて優勝できた。今後も参加して皆様と交流を深めていきたい」と述べた。

また、麦野・牧田代表幹事から代表幹事賞の提供があり、麦野代表幹事賞は、酒井洋氏(株建工ホールディングス)が、牧田代表幹事賞は眞門聡明氏(株インテック)が受賞し、それぞれ富山県ゆかりのガラス作家による作品が贈られた。

長谷川達雄世話人代表が「遠慮も斟酌も要らない会であり、春も奮って参加して欲しい。」と挨拶し懇親会を締めくくり、秋開催恒例の「松茸」が参加賞として手渡され皆清々しい余韻と共に呉羽カントリーを後にした。

(敬称略)

順位	氏名	OUT	IN	GROSS	HDGP	NET
優勝	木下 実	46	44	90	19.2	70.8
準優勝	伊勢 徹	48	48	96	24.0	72.0
3位	棚田 一也	46	48	94	21.6	72.4
4位	遠藤 忠洋	40	41	81	8.4	72.6
5位	山口 純平	41	50	91	18.0	73.0

今年最初の同友会の日！

— 富山 GRN サンダーバーズ応援 —

9月3日(日)、文化スポーツ委員会（武内孝憲委員長）は地元プロスポーツチームを応援する「同友会の日」を開催し、県営富山野球場において富山 GRN サンダーバーズ対石川ミリオンスターズの試合を観戦した。

当日は、残暑厳しい中、麦野代表幹事をはじめ会員・会員企業の従業員やその家族など56名が参加した。試合前に西能副委員長が「3年以上に及んだコロナ禍が明け、様々な



西能副委員長

スポーツが開催されている。3月に開催された、WBCでは富山サンダーバーズ出身の湯浅投手が侍ジャパンの一員として、富山の野球ファンの思いを背負って見事な活躍を見せてくれた。

今年、新生・日本海リーグとして出発した両チームの一層の飛躍を期待し、富山の野球文化が大きく育っていくことを心より願っている」と挨拶。試合は1点を追う4回、逆転2ランを放ち、6回にも2点タイムリーが飛び出した。7回に2失点したが、8回、9回と無安打無失点で逃げ切り、5-4で勝ち、日本海リーグ優勝まであと1勝とした。



J2 昇格へ、熱い応援！ — 「同友会の日」カターレ富山応援 —

10月15日(日)、文化スポーツ委員会（武内孝憲委員長）は本年2回目となる、「同友会の日」を開催し、富山県総合運動公園陸上競技場でカターレ富山対アスクラロ沼津の試合を観戦した。試合開始前、ピッチ内で行われた選手のウォーミングアップを見学。試合開始直前まで雷雨に見舞われたが、試合が始まるころには、晴れ間も見え、麦野代表幹事をはじめ、遠藤副委員長、会員や会員企業の従業員・家族など40名が同友会応援席からエールを送った。

カターレは、ホームで確実に勝利し、J2復帰の夢をつなぎたいところ。「昇格」の大きな横断幕が掲げられ、必勝で臨んだ試合は激しく競り合い、両チーム1対1の同点で



前半を折り返した。

後半に入り、リードしたいカターレだが、何度もゴールを狙うが得点にならず、後半49分終了間際に勝ち越し点を奪われ、試合終了。1-2で沼津が勝利した。J2昇格争いが大詰めを迎える中、カターレの勝利を願い、同友会応援席から熱い応援を送り続けたが、残念ながらホームでの勝利は掴めなかった。今シーズンは残り試合わずか。現在3位のカターレ富山。悲願のJ2復帰へ向けて、残りの試合は負けられない。



次回の「同友会の日」は、2月4日(日) 富山グラウジーズを観戦予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしています。



私のアナザースカイ シアトル

橋 本 淳

(サクラパックス株式会社 代表取締役)

大学を終えて、京都で就職をし、そのときはまだサクラパックスに入社する気持ちも覚悟も薄く、少しお金も貯まったことと、違う世界を見てみたいという気持ちだけで、1995年24歳で2年ほどアメリカシアトルに留学をしました。

当時のアメリカ経済は最悪で、一人当たりGDPは日本の65%。1ドルはなんと80円を割る超円高。あれから、27年。日米の経済力は完全に逆転し、最新のレートで計れば一人当たりGDPはアメリカのわずか半分。為替は一時は1ドル140円を超え、いまでも予断を許さぬ状況がつづいています。

シアトルは、メジャーリーグ、シアトルマリナーズにおいてイチロー選手が活躍する前で、ケン・グリフィー・ジュニアやランディ・ジョンソン、若き日のアレックス・ロドリゲスが活躍し球団史上初となる地区優勝を果たし、街中の車がクラクションを鳴らしていたのを昨日のこのように思い出します。

アメリカ人と触れて感じたのは、ろくに足し算引き算すらもまともにできず、体重のコントロールすらもできない（今の私はできていませんが）くせに、なぜ議論を始めるとあんなにもいかにも理路整然として意見を言う様子に驚きました。

そこの議論の場で少し鍛えられたからか、たまたま周りの方から「根拠のない自信がある人」だと言われるのはそこからきているのかもしれませんが。

私は、大自然に触れるのが好きで、アメリカから帰る直前3週間、一人車で国立公園を回りました。

カリフォルニア州のヨセミテ国立公園から始まり、日中は50度を越えるデス・バレー、ラスベガスに15分だけ滞在し、そのままグランド・キャニオン、レインボーブリッジ、そしてアメリカの原風景とも言われ多数の映画の舞台にもなっているモニュメントバレー、私が大好きなアーチズ国立公園等々を巡りました。

アメリカで、違う国籍・人種・文化・宗教・

考えの人と議論をし、そして広大な大地の中で一人ポツンと立っていると、将来への悩みなどちっぽけなことに思い、サクラパックスに入社する覚悟をしたのもこの時でした。

さて、コロナも明け、9月に久しぶりにシアトルに行ってきました。

コロナ前と大きくかわったのは

①超物価高

コーラが1.3ドルだったのが倍増の2.7ドル。日本円にすると400円ほど。ラーメンは3000円ほど。ガソリンは1ガロン5.36ドル。私がシアトルに住んでいたときは1ドル、なんと5倍以上に。

②マクドナルドのバイトが時給22ドルほど3200円ほどに。

③移民の増加

移民が異様に増えていました。移民政策の緩和とロサンゼルス経済悪化からシアトルに北上してきていました。移民政策によって日本と違い人口は保たれてはいるが治安がとてつもなく悪化しています。

④食品がどんどん危険になってきている。食中毒で死んでいる人が急増、ミルクシェイクを飲んで1週間で3人が死亡。生の野菜も安心安全で食べれるものではない。

⑤所得における大きな格差の拡がり

多くの国民がクレジットカードもつくれない状況、そしてリボ払いがかさみ、以前のサブプライムローンの雰囲気に近い様子が伺えました。

これらは肌感覚ですので全てが正しいわけではありませんが、世界経済そしてアメリカ経済を肌身で感じる事が出来る旅となりました。

何はともあれ現地で肌で感じる事の大事さに改めて気付かされました。

やはり旅はいいね！次はどこにしようかな！！

（次号は富山いすゞ自動車(株)取締役社長
の池田 治郎 様です。）

活動報告

9月1日～10月31日

○幹事会・定例会等

開催日時・場所	内 容	出席者
10月13日(金) 16:30～18:30 ホテルニューオータニ 高岡	10月幹事会・会員定例会(アントレプレナーシップ小委員会主管) 講師: 武蔵野大学 アントレプレナーシップ学部 学部長 伊藤 羊一 氏 演題: 「この国が再び立ち上がるために」	76名

○委員会

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
9月13日(水) 17:00～20:10 富山電気ビルディング	第2回企業経営委員会 (拡大委員会)	・ 会員企業による事例発表 講師: N i X J A P A N(株) 取締役社長 市森 友明 氏 演題: 「経営科学を思考の軸とした『地域企業再生』の一考察～『多様性』と『分散』の経営による成長は如何に～」	約120名
9月15日(金) 11:30～13:00 事務局会議室	文化スポーツ委員会 第3回正副委員長会議	・ 活動実績と今後の予定 ・ 年間スケジュールについて	7名
10月2日(月) ～4日(水) 広島市・松山市	第2回地域創生委員会 (県外視察)	・ まちづくり先進事例視察 (広島都心・松山市内) ・ まちづくりに関するヒアリング (広島経済同友会まちづくり委員会、 松山市、松山アーバンデザインセンター) ・ 広島経済同友会との交流会	25名
10月6日(金) 16:30～20:30 和食ティファニー	第2回委員長連絡会議	・ 委員会活動実績及び今後の活動予定 について ・ 委員会の運営について	6名
10月23日(月) 17:00～20:00 事務局会議室	第2回アスリート 支援小委員会	・ 委員会活動方針について ・ 今後の活動内容について	16名
10月25日(水) 17:00～19:40 オークスカナルパーク ホテル富山	第2回 ESG 経営 小委員会	講師: 三井住友トラスト・ ホールディングス 執行役員 三井住友信託銀行(株) 執行役員兼 ESG ソリューション 企画推進部 部長 松本 千賀子 氏 演題: 「ESG 経営と企業価値向上」	19名
10月27日(金) 15:00～16:30 事務局会議室	第2回交流委員会	・ 今年度海外経済視察の振り返り ・ 次年度海外経済視察の検討	9名
10月31日(火) 17:00～20:10 オークスカナルパーク ホテル富山	第3回企業経営委員会 (拡大委員会)	世界の政治経済の情勢に関する講演会 講師: (株)三井物産戦略研究所 特別顧問 緋田 順 氏 演題: 「日本を取り巻く世界情勢」	94名

○課外授業講師派遣

開催日時	学 校	対 象	講師・演題
9月8日(金)	富山県立入善高等学校	1学年189名	大橋 聡司 氏 「働くこと、よりよく生きること」
			川合 紀子 氏 「君たちはどう生きたいか」
			東出 悦子 氏 「自由に楽しく幸せに生きる」
			益田 貴司 氏 「今後のホテル業と地域への貢献」
			若林 健嗣 氏 「デジタルツインから考える『自分』を生きること」
9月15日(金)	富山県立雄峰高等学校	3年次約50名	牧田 和樹 氏 「よりよく生きる」
9月23日(土)	富山県立魚津高等学校	1学年160名	遊道 義則 氏 「生きるということ～人生って何なんだろう～」

○同友会諸会合

開催日	内 容	場 所	出席者
9月7日(木) ～8日(金)	2023年度「全国経済同友会事務局長会議」	高知県 高知市	上田事務局長
9月19日(火)	第10回 5 経済同友会教育担当委員会 交流会（中部経済同友会主管）	愛知県 瀬戸市・ 名古屋市	会員11名、教員4名
9月21日(木) ～22日(金)	第14回日本海沿岸地域経済同友会代表幹事 サミット（金沢経済同友会主管）	石川県 金沢市	23名
10月23日(月)	第31回経済同友会中央日本地区会議 （中部経済同友会主管）	愛知県 名古屋市	麦野代表幹事、 牧田代表幹事 他 計6名

○その他の会合

開催日	内 容	場 所	出席者
8月29日(火) ） 9月6日(水)	第10回海外教育事情視察	ドイツ、 オーストリア、 デンマーク	20名
9月3日(日)	同友会の日「富山 GRN サンダーバース」観戦	県営富山野球場	56名
9月9日(土) 8:40 スタート	第85回あけぼの会	呉羽カントリー クラブ	58名
10月4日(水)	T-Messe2023 富山県ものづくり総合見本市 第3回実行委員会	富山県民会館	麦野代表幹事
10月15日(日)	同友会の日「カターレ富山」観戦	富山県総合運動 公園	40名
10月26日(木)	T-Messe2023 富山県ものづくり総合見本市 オープニングセレモニー	テクノホール	麦野代表幹事
10月27日(金)	富山県庁周辺エリアマネジメント懇話会	富山県民会館	牧田代表幹事

会 員 の 入 退 会

(10月幹事会)

1. 最近思うこと

(社業についての抱負や最近の政治・経済・社会情勢等についての考えなど)

2. 生活信条(座右の銘等)

3. 趣味

入 会



あら い きみ ひろ
荒 井 公 浩

学校法人荒井学園

理事長

(紹介者：麦野英順氏
森田弘美氏)

1. 終わることの無い少子化と、社会情勢の大きな変化がある中で、県立でもない、私立でもない、選択肢としての荒井学園を目指していく
2. 何かしらの役割があって生かされている
3. アウトドア、車、美術鑑賞



いわ い のり ひろ
岩 井 典 宏

堤商事(株)

代表取締役

(紹介者：中澤 宏氏)

1. 常に新しいことにチャレンジする意識を持ち、スピード重視で顧客第一主義の実践に努め、保険商品・サービスの提供を通してお取引先や地域の発展に貢献してまいります。
2. 謙虚にして驕らず
3. ゴルフ



きた がわ きよ ひで
北 川 清 秀

医療法人財団

とやま医療健康センター

とやまPET 画像診断センター

理事長

(紹介者：麦野英順氏
藤井久丈氏)

1. 医療関係はすべて国が決定した価格体系で動き、我々の選択肢はない。その中で如何に患者さんに満足して頂き、なお医療関係者の満足度を上げるかに苦心している状況です。
2. 忘己利他
3. 絵画、音楽、家庭菜園



くろ だ しょう せつ
黒 田 祥 撰

(有)黒田建設

代表取締役

(紹介者：塩井保彦氏
金田俊樹氏
酒井健吉氏)

1. 建設業の抱える課題は様々ありますが、チャレンジ精神を忘れず地域に根差し、災害時にも地域を守る建設業としての役割を果たしていきたいと思っています。
2. 一期一会、行雲流水、Que Sera, Sera
3. サーフィン、ゴルフ、ボクシング



すぎ き はじめ
杉 木 肇
北陸電話工事(株)
富山支店長
(紹介者：牧田和樹氏
東山真也氏)

1. 情報通信インフラの構築に加え、デジタル化・脱炭素・防災減災などの課題解決に向けた社会基盤整備に貢献する総合エンジニアリング企業を目指してまいります。
2. 十数回の転勤を経て、最近県内に落ち着きました。日常のちょっとした気づきを大切に。
3. 山登り、雲ノ平でゆったりするのが夢



ふじ わら よし のり
藤 原 宜 紀
(株)藤原重機
代表取締役
(紹介者：塩井保彦氏
石倉 央氏
金田俊樹氏)

1. いろいろな状況に挑戦させてもらえる日々
に感謝です
2. 鳥肌は嘘つかない（鳥肌が立つ出来事は直
感で本物とを感じる事）
3. スキューバダイビング、登山

交 代



しん や とも ひろ
新 谷 智 弘
日本海コンクリート工業(株)
取締役社長
(前：山田彰弘氏)

1. コンクリート製品の製造販売や基礎杭の施
工管理を通して、「環境にやさしく高品質
な商品・サービス」の提供に努め、みなさ
まの安全・安心な街づくりに貢献します。
2. 質実剛健
3. ゴルフ、家庭菜園



ひら の しょう ぞう
平 能 正 三
三協立山(株)
取締役社長
(前：山下清胤氏)

1. 企業を取り巻く環境の変化が激しくかつ地
政学的リスクを含めグローバルに発生。加
えて日本の人口減少に対する危惧。これら
に対する対応力が必要と思う。
2. 「日に新たに」過去の考え方、従来のやり方
にとらわれず日に新たに考え、ことをなす。
3. あくまで健康の為のエンジョイゴルフ

退 会

愛 場 秀 孝 (株)あいば食品
代表取締役

大久保 健 一 キリンビール(株)北陸支社
富山支店長

(令和5年10月13日現在 会員数440名)

同友会の思い出

富山経済同友会 事務局員 福田 正美

○まず会報の貴重な紙面を使わせていただくことに感謝申し上げます。私は平成15(2003)年3月に富山経済同友会事務局員として着任しました。2年前に創立40周年、前年に第15回全国経済同友会セミナー(富山開催)を終えた年で、着任翌月の定時総会で古田代表幹事が退任、中尾代表幹事一人体制となり当時の会員数は299名でした。着任早々、中尾代表幹事から総会の懇親会で司会をするよう仰せつかり、とんでもなく緊張したのを思い出します。そしてその時、乾杯と同時に名刺交換等で座が乱れることを防ぐため、乾杯後20分は席を立たないという“20分ルール”を相談して決めたことも良い思い出です。

○在籍20年9か月、今年11月末で定年退職を迎えます。毎日ワクワクドキドキの連続…同友会ならではの経験、景色をたくさん見させていただきあつという間というのが正直な印象です。それは当会の事業が非常に活発なことに所以すると思います。委員会活動はもとより、様々な交流活動が行われ、東北3県・山陰3県交流ミッション、東海北陸自動車道全線開通記念イベント、日本海沿岸地域経済同友会代表幹事サミット、三山^{みやま}経済同友会交流会、教育担当委員会交流会…これらを提唱したのは当会です。平成18、19年に富山と高岡で開催した「昆布まつり」は先人たちの開拓魂に思いを馳せ北海道から沖縄まで多くの皆様にお集まりいただき昆布ロードが結ぶ大交流会となりました。平成23年4月の創立50周年記念式典・祝賀会で当時の江畑局長と一緒に司会を務めさせて頂いたことも懐かしい思い出です(写真)。平成24年4月、富山で2回目となる第25回全国セミナーではその年珍しく遅咲きの桜が全国1000人を超える経済人をお迎えし富山の観光・文化・教育を通して交流を図り、全国の同友会から高い評価を得ました。さらに同時期、「ふるさとの



創立50周年記念式典にて

歌づくり実行委員会」事務局を兼務し富山県民愛唱歌「ふるさとの空」制作に携わりました。富山の魅力、ふるさと愛が詰まった素敵な歌が完成しとても感動しました。

○以降、平成27年3月北陸新幹線長野ー金沢間開業に合わせ高校生と実施した「技術革新を実感する電車の旅」、平成29年度「女性キャリア採用宣言」から始まった人財創出・活躍に関するプロジェクトやオーディション等、経済・社会情勢に寄り添った活動を行い、現在の会員数は440名となっています。

○様々な思い出が走馬灯のように蘇り感慨深いものがありますが、微力ながらも事務局の一員として過ごした日々は、私にとって光栄でかけがえのない財産です。お世話になった会員様、関係者各位に心より厚く御礼申し上げます。今後はこれまで賜りましたご縁、ご恩を心の糧に過ごしてまいる所存です。同友会はこれからも私の心のふるさとであり大好きな場所です。

○最後に富山経済同友会が行動指針「創造する経済人行動する同友会」のもと更にご発展されますよう、ならびに会員各位のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます。

※着任以降ご入会された会員様は延べ1120名、苦楽を共にした事務局の皆様は46名に上ります。多くの出会いに感謝し、たくさんの思い出に感無量です。そして、いつも支え応援してくれた家族に感謝しております。

慶事のお知らせ

おめでとうございます

令和5年秋の褒章及び富山県功労表彰において、当会会員が晴れの栄誉を受けられました。心からお慶び申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍を祈念いたします。

藍綬褒章



中沖 雄氏

富山銀行
取締役頭取
当会常任幹事

富山県功労表彰



大橋 聡司氏

大高建設(株)
取締役社長
当会副代表幹事



津嶋 春秋氏

(株)アーキジオ
取締役会長
当会常任幹事

今後の予定

開催日	対 象	行 事	場 所
12月4日(月)	全会員	海外視察報告会・年末定例会 (企業経営委員会主管)・懇親会 講師：(株)ユークレナ代表取締役社長 出雲 充氏	A N Aクラウンプラザ ホテル富山
1月11日(木)	幹事	新年幹事会・富山県知事との昼食会	富山電気ビルディング
1月31日(水)	全会員	1月会員定例会(教育問題委員会主管) 講師：さいたま市立大宮国際中等教育学校 校長 関田 晃氏	オークスカナルパーク ホテル富山
2月4日(日)	全会員	同友会の日「富山グラウジーズ」	富山市総合体育館
3月13日(水)	幹事	3月幹事会	A N Aクラウンプラザ ホテル富山
3月13日(水)	全会員	3月定例会(文化スポーツ委員会主管) 講師：レヴォ オーナーシェフ 谷口 英司氏	A N Aクラウンプラザ ホテル富山
4月16日(火)	幹事	4月幹事会	富山電気ビルディング
4月18日(木) ～19日(金)	全会員	第36回全国経済同友会セミナー (福井経済同友会主管)	福井市内
4月24日(水)	全会員	2024年度定時総会・懇親会	A N Aクラウンプラザ ホテル富山

〔表紙写真〕

第10回海外教育事情視察

8月29日(火)～9月6日(水)、教員9名と当会会員等11名の総勢20名が、ドイツ・オーストリア・デンマークの教育・文化・社会事情を視察。

写真は、現地での行程初日、オーストリア・ザルツブルクのミラベル庭園にてホーエンザルツブルク城を背景に撮影したもの。美しい花々が咲き誇る同庭園は映画サウンド・オブ・ミュージックのロケ地としても有名。

発 行 所

富山経済同友会

富山市牛島新町5番5号 インテックビル4階

電 話 (076) 444-0660

F A X (076) 444-0661

e-mail: doyukai@po.hitwave.or.jp

https://www.doyukai.org/



昭和52年11月明石市にて（1番前左から2番目が本人）



夜討ち朝駆け

株式会社リョーシン 取締役社長

高野 治

「おはようございます！」

「オー、どうしたんだ。こんなに早く。」

およそ50年近く前、私は三菱重工業建設機械の営業マンをしていました。

朝六時ごろ顧客建設業事務所の前で、社長が出社されるのを待受けての最初の会話です。

建設機械を購入される中小規模の会社の社長は、殆ど現場へ出て陣頭指揮を執っておられ、日中は事務所に居られないのが通常でした。

今では到底受け入れられない事でしょうが、当時は先輩から「夜討ち朝駆け」が出来る営業マンのあるべき姿だと教えられ、忠実にそれを実施して実績を上げていました。

私に限らず、製造業の現場、自動車のセールス、銀行員、証券マンなどなど成功を取めて評価される販売員は同様の活動をされていました。

活動している当人にとっては、「やらされている」感ではなく、会社の為、家族の為にこれだけ「やれているのだ」との自負心で一杯でした。

イケイケのムードの中実績を競い、成功した時の祝い酒、失敗した時の反省会、仲間の入部

歓迎会、部署移動の送別会等大いに盛り上がりました。

まさに、我が人生悔いなしと謳歌していました。

しかしそのことが、最近では家族からは子供の頃遊んでもらった記憶がない、奥さんからは近所付き合いや町内会の役は私ばかりだった、度重なる引っ越しの準備は私一人でやっていたと不満の嵐がたびたび吹きまくるザマです。

以前はそのような時、「当時のことがあったから今がある」と言ってきたものの、他に本当にやりようがなかったのか？ 最近は自信が揺らいでいます。

思えば、当時の世界各企業は売上を伸ばすことに翻弄して、無計画な資源の採取、環境汚染の問題を二の次にしていたように思います。その結果、地球温暖化による異常気象、地下資源の枯渇など取り組みしなければならない地球規模の問題が山積しています。

私はこの家庭問題と環境問題の解決に向かい、反省を込めて此の後の人生をかけたいと思います。